

# 調査の概要

## 1 調査目的

本調査は「人権擁護宣言都市」にふさわしい人権が尊重されるまちづくりを推進するための、市民の人権に関する意識の現状を把握し、今後の人権教育・啓発施策の方向性を明らかにすることを目的とした。

## 2 調査項目

- (1) 社会意識について
- (2) 同和問題について
- (3) 男女平等について
- (4) 子どもの人権について
- (5) 障害者の人権について
- (6) 高齢者の人権について
- (7) 日本に住む外国人の人権について
- (8) さまざまな人権問題について
- (9) 人権問題の啓発活動について

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 堺市内全域
- (2) 調査対象 市内在住の16歳以上の男女
- (3) 標本数 6,000人
- (4) 抽出方法 各支所毎の人口比率に合わせ住民基本台帳および外国人登録原票から無作為抽出
- (5) 調査方法 質問紙による郵送調査法(調査期間中に全調査対象者にお礼状はがきを送付)
- (6) 調査期間 平成17年11月15日から11月30日

## 4 回収結果

サンプル数	回収数	有効回収数	有効回収率
6,000	2,877	2,850	47.5%

回収票のうち、白票及び記入不備については、無効票として、有効回収数には含めない。

## 5 調査機関

堺市 市民人権局 人権部 人権推進課

## 6 調査の監修

本調査における監修を前回平成11年調査に引き続き、桃山学院大学内人権意識調査研究会（代表：寺木伸明教授）に依頼した。

調査項目	研究会内における担当の先生
1. 社会意識について	前田 徹生（法学部教授 憲法学）
2. 同和問題について	寺木 伸明（文学部教授 部落差別問題）
3. 男女平等について	軽部 恵子（法学部助教授 国際連合）
4. 子どもの人権について	軽部 恵子（法学部助教授 国際連合）
5. 障害者の人権について	安原 佳子（社会学部助教授 社会福祉）
6. 高齢者の人権について	安原 佳子（社会学部助教授 社会福祉）
7. 日本に住む外国人の人権について	寺木 伸明（文学部教授 部落差別問題）
8. さまざまな人権問題について	前田 徹生（法学部教授 憲法学）
9. 人権問題の啓発活動について	寺木 伸明（文学部教授 部落差別問題）
10. 調査方法について	木下 栄二（社会学部教授 社会調査）

## 7 報告書の見方

(1) 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがある。

(2) 複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計は100%を超える。また、本文中、表やグラフに次にあげるような表示がある場合、複数回答を依頼した質問である。

- ・ MA% (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合。
- ・ 2LA% (2 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを2つまで選択する場合。
- ・ 3LA% (3 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを3つまで選択する場合。

(3) 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数(N=Number of case)、または合計件数(複数回答の場合における延回答数)として算出した。

(4) 本報告書において、第4回堺市人権意識調査(以下、グラフ内：平成11年、本文中：前回調査)との経年比較を行っている質問がある。その概要は以下の通りである。

調査地域：堺市内全域

調査対象：市内在住の16歳以上の男女

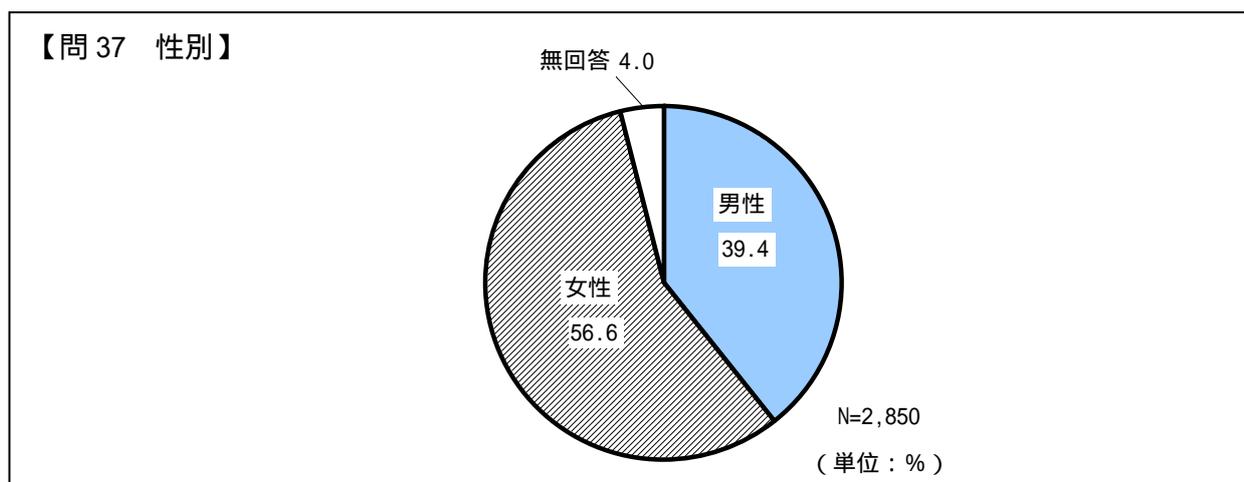
標本数：6,000人(有効回収：2,948、有効回収率：49.1%)

抽出方法：各支所毎の人口比率に合わせ住民基本台帳および外国人登録原票から無作為抽出

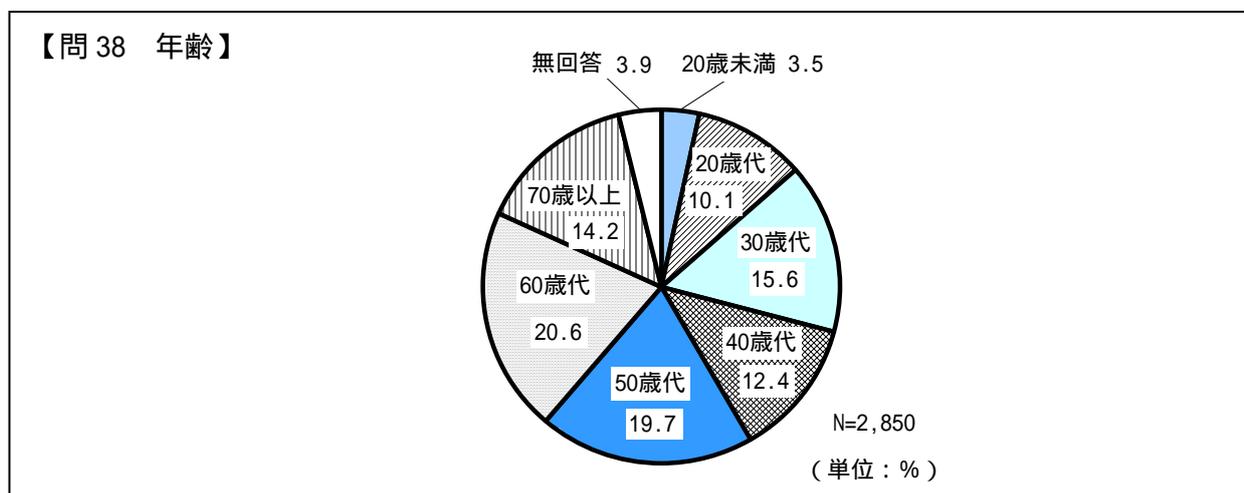
調査方法：質問紙による郵送調査法(調査期間中に全調査対象者にお礼状はがきを送付)

調査期間：平成11年8月27日から9月14日

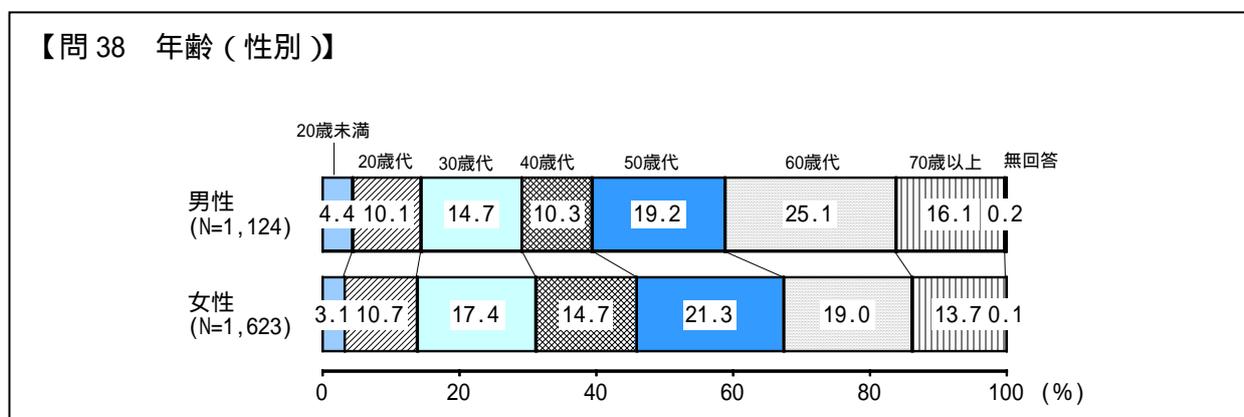
## 8 回答者の基本属性



回答者の性別は「男性」39.4%、「女性」56.6%となっている。

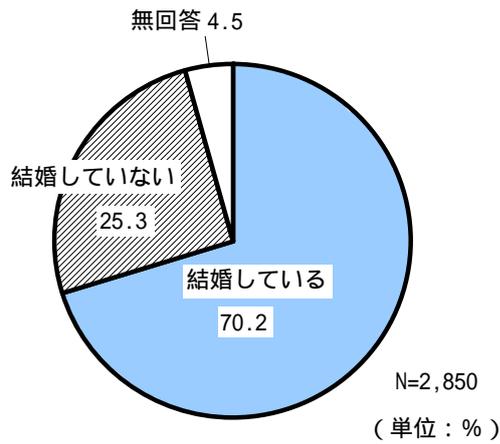


回答者の年齢は、「20歳未満」3.5%、「20歳代」10.1%、「30歳代」15.6%、「40歳代」12.4%、「50歳代」19.7%、「60歳代」20.6%、「70歳以上」14.2%となっている。



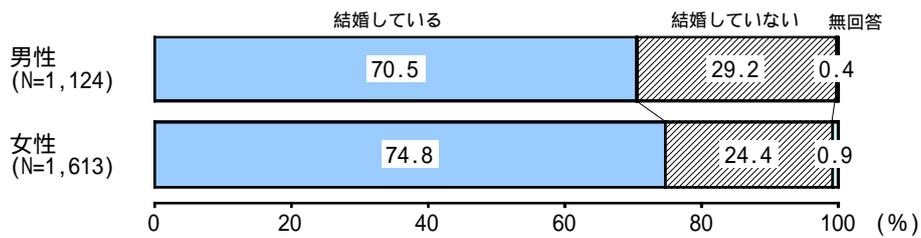
年齢を性別で見ると、男性は「60歳代」25.1%が最も高く、次いで「50歳代」19.2%、「70歳以上」16.1%となっている。女性は「50歳代」21.3%が最も高く、次いで「60歳代」19.0%、「30歳代」17.4%となっている。

【問 39 結婚の有無】



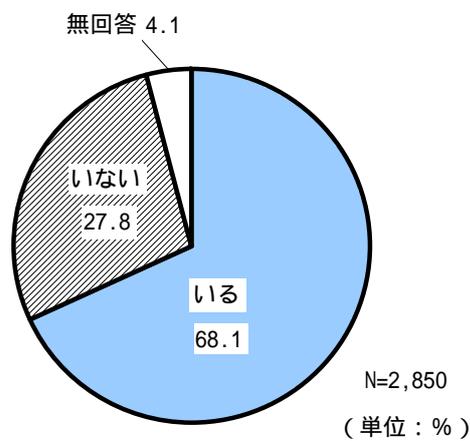
結婚の有無は、「結婚している」70.2%、「結婚していない」25.3%となっている。

【問 39 結婚の有無（性別）】



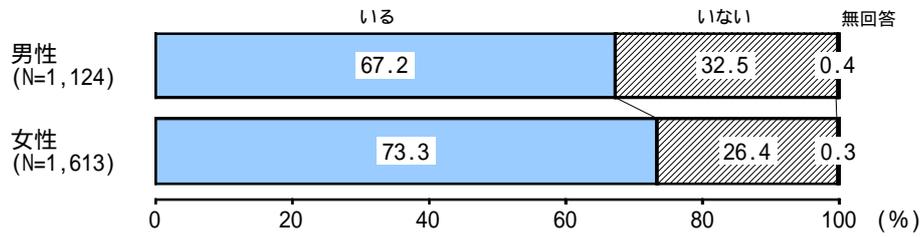
結婚の有無を性別で見ると、男性は「結婚している」70.5%、「結婚していない」29.2%、女性は「結婚している」74.8%、「結婚していない」24.4%となっている。

【問 40 子どもの有無】



子供の有無は、「いる」68.1%、「いない」27.8%となっている。

【問 40 子どもの有無（性別）】

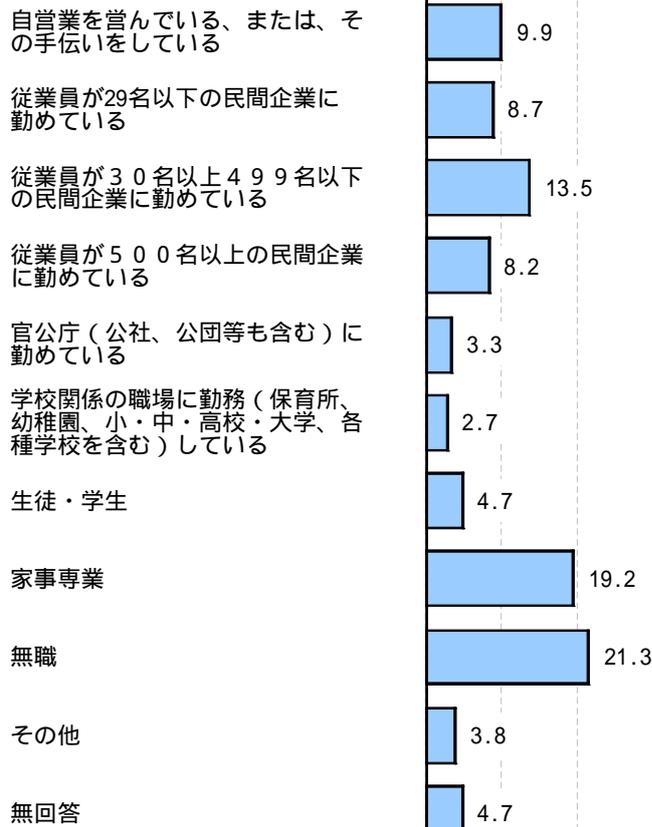


子どもの有無を性別で見ると、男性は「いる」67.2%、「いない」32.5%、女性は「いる」73.3%、「いない」26.4%となっている。

【問 41 職業】

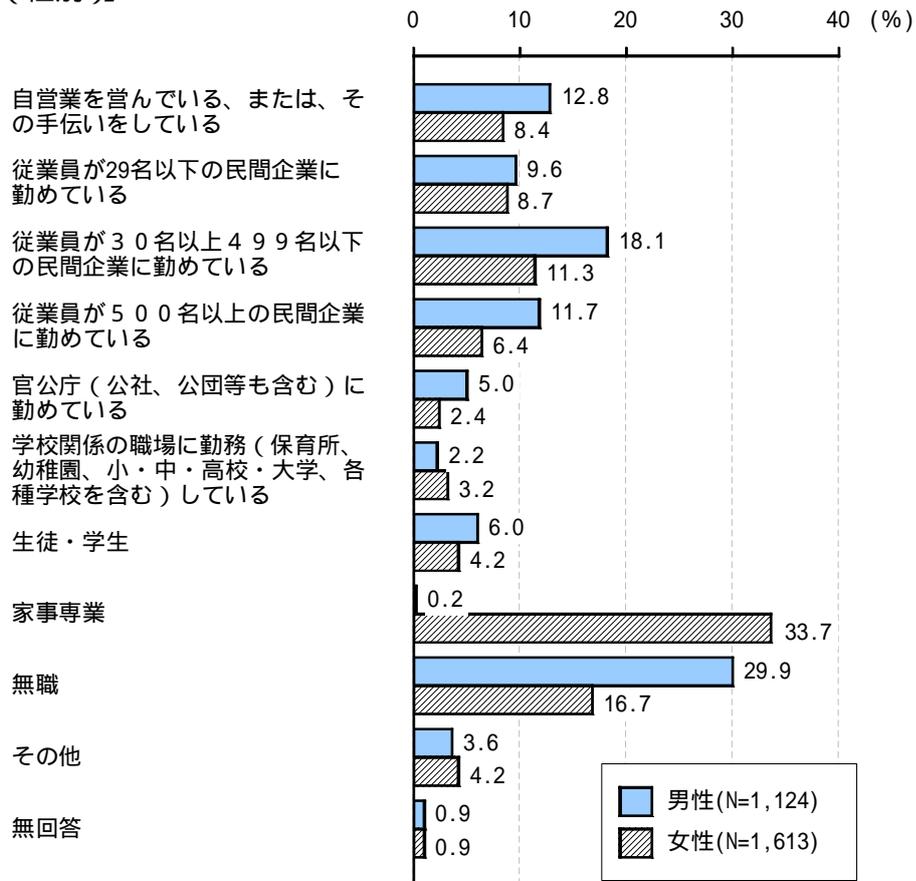
N=2,850

0 10 20 30 40 (MA%)



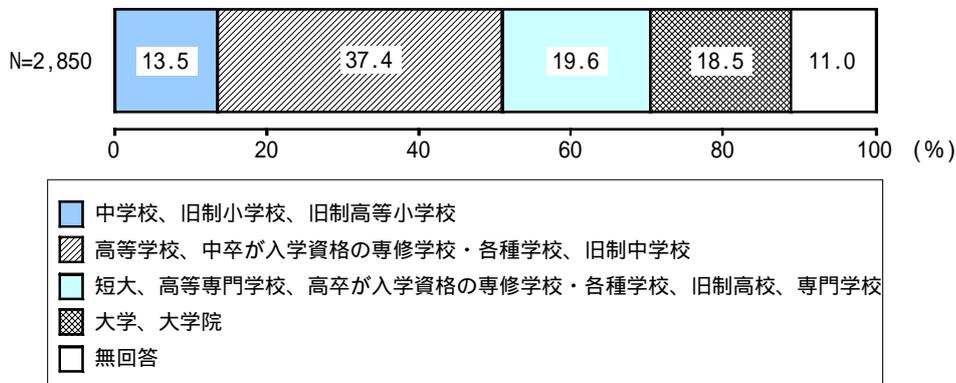
職業は、「無職」21.3%が最も高く、次いで「家事専業」19.2%、「従業員が30名以上499名以下の民間企業に勤めている」13.5%と続いている。

【問 41 職業（性別）】



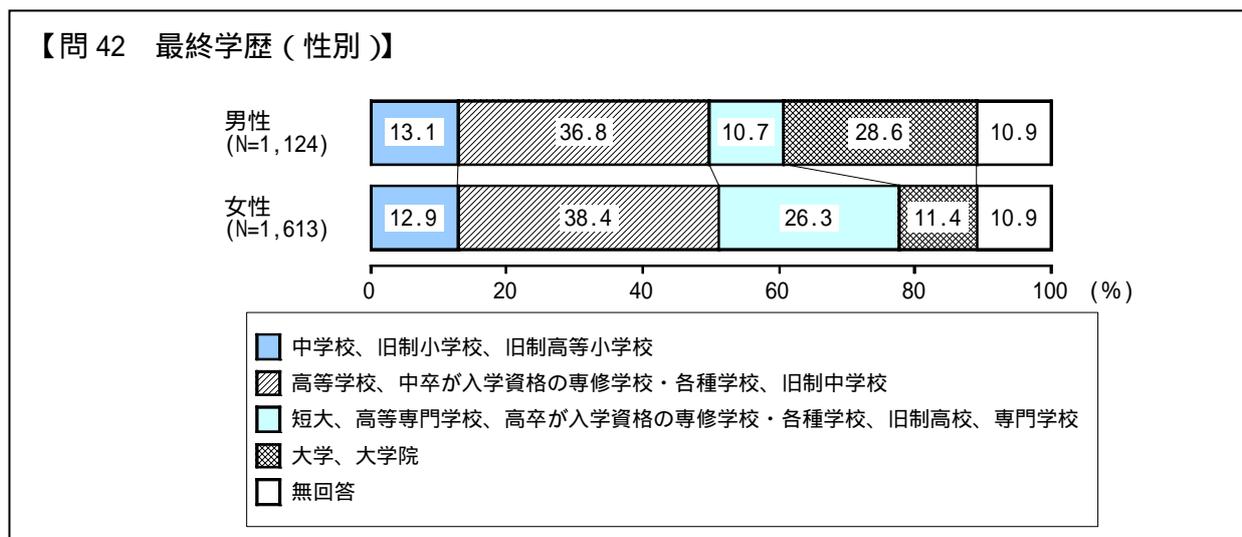
職業を性別で見ると、男性は「無職」29.9%が最も高く、次いで「従業員が30名以上499名以下の民間企業に勤めている」18.1%、「自営業を営んでいる、または、その手伝いをしている」12.8%となっている。女性は「家事専業」33.7%が最も多く、次いで「無職」16.7%、「従業員が30名以上499名以下の民間企業に勤めている」11.3%となっている。

【問 42 最終学歴】



最終学歴は「中学校、旧制小学校、旧制高等小学校」13.5%、「高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校」37.4%、「短大、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学

校、旧制高校、専門学校」19.6%、「大学、大学院」18.5%となっている。



最終学歴を性別で見ると、男女ともに「高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校」が最も高く、男性は次いで「大学、大学院」28.6%、「中学校、旧制小学校、旧制高等小学校」13.1%となっている。女性は次いで「短大、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校」26.3%「中学校、旧制小学校、旧制高等小学校」12.9%となっている。